

令和5年度 学校経営方針

あやめが丘小学校

めざす学校像

- 子どもや保護者、地域から信頼される学校
- 清潔で美しく、温かさのあふれる学校
- 進んであいさつのできる明るい学校
- 研究的で活力みなぎる学校

学校教育目標

豊かな人間性を培い、心身ともにたくましく
自分らしさを発揮し、生きる力を育む児童の育成

めざす子ども像 大きく育てよう!!あやめの子

- お…思いやりのある子（基本的生活習慣を身に付け自他を大切にし、感謝の心をもつ子ども）
- お…落ち着いて考える子（自分のめあてに夢中で問い、考え合い、表現する子ども）
- お…鍛えた体をもつ子（心身の健康に気をつけ、進んで運動や遊びに取り組む子ども）
- お…くじけずやり遂げる子（最後まであきらめず、やりとげる 責任感の強い子ども）

めざす教師像

- 知恵を出し合い、協力、協働できる教師
- 子ども・保護者・地域とのかわりを深め、信頼と期待に応える教師
- 授業の創造に努め、一人一人のよさや可能性を伸ばす教師
- 課題を的確に捉え、自ら研修を積む教師

本年度の重点 大切にしたい「3つの要素」 I 授業づくり II 関係づくり III 環境づくり

- あやめが丘小学校の児童であることに誇りをもてるような学校生活の充実を図る。
そのための3つの柱「楽しくやりがいを感じる授業づくり」「思いやりのある人間関係づくり」「安心・安全に過ごせる生活環境づくり」を重視する。
- 「学びチャレンジリーディングスクール事業」において、社会科・生活科研究を充実させ、研究拠点としての研究成果を公開する。
- 不登校対策、犯罪及び災害対応、感染症予防など、常にアンテナを高く張り、危機管理意識を高くもった指導体制の確立を行う。
- 「チーム学校」を全職員で意識し、業務の平準化を図るとともに、教材研究や授業準備の時間の確保に努め、業務改善を図っていく。
- 特別支援教育の充実をめざし、個々の児童の教育的ニーズを把握し、関係機関や家庭とのより緊密な連携を図りながら適切な指導に努める。
- 帰国・外国人児童生徒教育センター校として、日本語指導の充実を図り、豊かな国際感覚を育むとともに国際理解教育の推進を図る。

本年度の努力点

- 基礎的・基本的な内容の確実な定着と学力向上と体力向上 【ICT機器（タブレット端末）の有効活用を模索し、意見交流等を活発に行う】
 - 伝え合う力、高め合う力を育成するために、読解力や書く力を重視した取組と自分の考えを明らかにして話し合う場を重視する。
 - 新学習指導要領に沿って「あやめスタイル」を全職員で確認するとともにその定着を図る。
 - 体育科学習の充実や体力向上のための取組を図ることで、子どもの体力の向上を図っていく。
 - あやめが丘「カリキュラム・マネジメント」の創造を意識した実践を行い、社会に開かれた教育課程を実現していく。
- 学年・学級・教科等経営の充実
 - 自分以外の人のために働くことの尊さや喜びを実感させる場面を増やし、かかわる人々からの共感的な評価を行い、充実感を味わわせる。
 - 学年・学級相互に連携を保ちながら、人間関係づくりや生活環境づくりを重視したよりよい学年・学級・教科等の経営を行う。
 - 校内研修、若年研修の充実を努め、資質・能力等、指導技術の向上を図る。
- 特別支援教育
 - 特別支援教育の充実を図り、個々の特性や支援のあり方を共通認識するとともに、児童一人一人のニーズにあった支援体制の確立を図る。
- 特色ある教育活動
 - 主題研究の推進・・・「学びチャレンジリーディングスクール（3/3年次）」の推進を図り、「主体的・対話的で深い学びを通して、思考力・判断力・表現力等を高める」学習スタイルを模索する中で、授業改善に取り組み、研究のより一層の推進を図る。
 - 他教科、領域の学習においても、問題解決的な学習や児童が主体となる能動的な学習展開を図る。
- 開かれた学校づくりの推進【ポストコロナに対応した新しい学校様式】
 - 国型コミュニティスクール校として、地域の教育力を学校教育に生かし、地域との連携を高めながら地域の一員としての学校づくりに努める。
- その他
 - 児童・教師全員がひたむきに働く「掃除」への取り組みを行う。 ○ 学校行事の精選や見直し等、業務改善を意識した取り組みを行う。
 - 休み時間の話・遊びなど、学習指導以外での児童とのつながりを大切にする。 ○ 場や相手に応じた正しいあいさつ、言葉遣いを職員全体で指導、徹底する。
 - 学校通信・学校ホームページなどを通して発信に努める。

道徳教育

- 自ら考え議論する道徳の授業の推進。
- 自らの成長を実感し、意欲の向上につながるような認め、励ます評価を行う。
- 児童の発達段階や「特性等を踏まえて、自立心や自律性、規範意識の育ちや生命尊重、自尊感情の重点的な育成
- 道徳の時間を要として、各教科・領域の特質に応じ、教育活動全体を通じた道徳的な成長を実感できる指導

各教科

- 習得した基礎的・基本的な知識・技能の活用を図る学習活動を行い、問題解決的な学習を通して、思考力、判断力、表現力等の育成に努める。
- 体験的、問題解決的な学習を重視するとともに「言葉の力」を高め、言語活動を重視する。
- 家庭や地域との連携により、望ましい生活習慣、学習習慣、読書習慣等を身に付け、児童の学びの基盤づくりを行う。
- 北九州市スタンダードカリキュラムを活用する。

特別活動

- よりよい生活や人間関係を築こうとする児童の育成を目指す特別活動の推進
- 望ましい集団活動を通して心身の調和の取れた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としての自主的、実践的な態度の育成を図る。
- 縦割り異年齢集団での活動の充実
- 各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間との関連を図る。

その他、社会の変化に対応する教育等

- 外国語活動や外国語科の学習活動を通して（コミュニケーションを図ることを通じて）国際感覚を育む。
 - 専科指導教員やALTとの協力・連携し、英会話体験学習を通じた子どものコミュニケーション力の育成
- 特別支援教育（児童一人一人の教育的ニーズに応える特別支援教育）
 - 小倉北特別支援学校や特相センター等との連携により、障害や発達の特性を掴み、きめ細かな指導に努める。
 - 通級指導における教室環境の整備を行うとともに、児童の指導体制の確立を図る。
 - 必要に応じてケース会議を行い、校内支援体制の充実と保護者との相談活動を行う。
- 人権教育（確かな人権感覚を育み、人権意識の高揚を図る人権教育）
 - 公教育の立場を明確に、自分だけでなく、他の人の大切さを認める人権感覚と自他の人権を守ろうとする実践力の育成を図る。
 - 「新版いのち」や「人権ハンドブック」等を活用し、組織的計画的に指導内容、指導方法の改善充実を努める。
- 生徒指導（自己指導能力を育成し、自己実現を目指す積極的な生徒指導）
 - 定期的な「心のアンケート」調査、教育相談活動を充実させ、きめ細かく児童の状況を把握する。
 - 規範意識の育成を重視し、危険なことやいじめへの対応、予防指導・事後指導の徹底、教育相談活動の充実を図る。
 - 不登校をはじめとする様々な問題事象に組織的に対応する生徒指導体制の確立と家庭・地域・関係機関及び校種間での連携を図る。必要に応じてSCやSSWと連携して指導にあたる。
- 総合的な学習の時間（自己肯定感や自己有用感を高める総合的な学習の時間の充実）
 - 地域の特性を生かし、自ら課題を見つけ、自ら学び・考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力の育成を図る。
- 健康教育【学校保健、学校安全、食育・学校給食・体力向上】（健康で安全な活力ある生活を送るための基礎を培う）
 - 保健教育の充実により、生涯に渡り心身ともに健康で安全な活力ある生活を送るための基礎的実践力の育成を図る。
 - 安全に関する意思決定や行動選択ができる資質や能力の育成を図る。
 - 給食時における会食の楽しさ、食事への正しい理解と望ましい食習慣の育成を図る。
 - 体力向上に向けて、授業改善、運動習慣の育成、新体力テスト、体育的行事の充実を図る。
- 学校図書館教育（思考力、判断力・表現力等の育成と望ましい読書週間の形成）
 - 学校図書館機能の充実と教育活動全体での計画的な利用を図る。（学習センター・情報センターとしての活用）
 - 児童の主体的・意欲的な学習や読書活動の充実と読書習慣の形成を促す。
- SDGsの視点を踏まえた教育活動の推進
- 環境教育
 - 持続可能な社会の構築に、児童が主体的に取り組む態度や能力の育成を図る。
- 国際理解教育
 - グローバルな視野に立ち、主体的に行動する態度や能力の育成を図る。
- 防災教育
 - 防災教育の重要性を認識するとともに、防災教育の全体計画を作成し、教育全体を通じて行う。
- キャリア教育
 - 具体的な体験的な活動を通して、勤労観や職業観を育てる指導の工夫を図る。
- 情報教育
 - 情報活用能力の育成（プログラミング教育、タブレットの活用）
 - 一人1台のタブレット端末を駆使し、各教科の指導に生かすとともに、教育活動全般で活用する。
- 福祉教育
 - 体験的な活動を通して、一人一人の考え方や生き方を尊重し、ともに生きる力を培う。